



本年度も明日の修了式を残すのみとなりました。3学期の始業式で、「この学期は来年度へ向けてのウォーミングアップ、準備の時でもある。」というお話をしました。準備はとても重要です。18日に閉幕した平昌オリンピック・パラリンピックで日本人選手が大活躍をしました。そんな選手を応援しながら、私は2010年バンクーバーオリンピック・モーグルで4位に入賞した上村愛子選手の事を思い出しました。上村選手は、98年長野で7位、02年ソルトレイクで6位、06年トリノで5位、一つずつ一つずつ順位を上げてもう少しでメダル。しかしメダルを期待され、自分自身も期待して臨んだこの大会でも、そのメダルを手にはできませんでした。次の日の彼女のブログを紹介します。



どうして、どうして？こんなにもたくさんの人が私を支えてくれているのに。何で、私は結果を残せないんだろう。メダルはいつも、もうちょっとのところで届かない。今、こうやって文字にしながらかも考えてしまいます。答えのない答えは考えないほうがいいのか。もしくは、開き直ったら楽になれるのか。昨日の夜は、いろんなことを考え、眠れませんでした。オリンピックを夢見て、オリンピックでのメダルを夢見てずっと戦い続けてきました。毎年、毎日、新しい考え方や新しい行動。いろんな自分を発見してきました。自分のこうありたいと思う通りの自分。自分の嫌いな自分。成功した時の喜び。失敗したときの悔しさ、悲しさ。心が折れるとき。また立ち向かうとき。いろんな自分と向き合い、スキーの技術の成長と同じように、自分自身を成長させることができました。オリンピックのメダルを取ることは、自分自身に課せていた責任でした。周りの方からの大きな支援とご協力。それにお返しできるのは、やはり結果が全てだと、今も思います。(中略)私には、大きなプロジェクトを大成功に収める力は少し足りなかったけれど、そのための準備は万全だったし、私たちの技術が世界一なんだ！と胸を張って滑ったことは確かです。

「がんばれば何とかなる」「努力すれば必ず結果がついてくる」というようなことを私はよく言います。しかし、どんなに努力しても、どんなに頑張っても結果に結びつかない事なんて、いくらでもあるようにも思います。上村選手のブログを読んで感じたことは、夢をかなえるための基準は、「準備にベストを尽くしたか」この1点に尽きるということです。メダルという目標を達成できなくとも、自らの競技人生をかけて必死の努力をし続けたことに、賞賛を贈らない人はいません。上村選手は、この大会後も厳しい練習を積み重ね、4年後のソチ大会にも出場を果たし結果はやはり4位、そして引退。引退後に「応援を重圧ではなく、それだけの力があるからだ」と自信に感じられるようになりました。ようやく五輪で思い描いた通りの滑りができたからやめることができました。二十歳のころは毎日いろいろなことが起きる。怖いけど、経験したからこそ得られることがあるんです。自分から台風に飛び込んでいくようにぶつかってみてほしい。あのころがなかったら、今の自分は絶対になかったと思います。」と競技人生を振り返りました。彼女は20年以上世界のトップで戦い続け、連続5回のオリンピックに出場しました。そして、ずっと彼女の頑張る姿を支え応援し続けた多くの人たちに夢や希望、幸せを与え続けてくれました。「夢に向かって最善を尽くす」は、本校学校目標の一部ですが、夢に向かうためには、自分も周囲も納得するような「準備」が必要です。

◆第31回卒業証書授与式◆ 3月9日(金)

担任が一人一人の名前を呼びます。「はい」という大きな返事に3年間の全てが込められています。感動と感謝に包まれた温かい、すばらしい卒業式になりました。3年生は、最後まで見事なほど立派でした。

(校長式辞一部抜粋)「人は、幸せになるために生まれてきた。」

「幸せ」確かに今を生きる皆さんにとって、モノやお金、学力や体力、地位や名誉や権力は、人を幸せにする力になる事は、まぎれもない事実だと思います。でもそれさえあれば、本当に幸せかというところでもないことに気づきます。幸せは自分の心の中にあるのです。私たちは決して一人では生きられません。私たちは、周りの人に必要にされ、人の役に立ち、人に褒められ、人に愛されるという、他の人とともに生きていくことにより、「幸せ」になれると私は思います。愛する人の笑顔の中にこそ、幸せは潜んでいます。



作家重松清は「あすなる三三七拍子」という小説の最後で、主人公にこう語らせています。「応援。今わかった。それは自分以外の誰かのことを、ひたすらに、がむしゃらに思うということなのだ。」「俺はこれからも、誰かを応援していきたい。俺自身のことも、俺のまわりにいる連中のことも、同じ時代に生きている仲間のこと、ずっと、応援する」「皆も、いまは若くて、誰の応援も要らないなんて思っている皆も、誰かを応援するなんてカッコ悪いと思っている皆も、ほんとは、今だって、誰かに応援されてるんだ、誰かを応援してるんだ。応援して、応援されて、そうやって、皆は生きてるんだと、俺は思う!」「皆も、どうか、自分のことを一生応援してくれるひとに出会ってくれ!自分が一生応援したくなるひとに出会ってくれ!」と。

世界は今、この瞬間にも、人間を圧倒する自然の驚異、理不尽な事件や事故、紛争や飢餓により失われている多くの命があり、先行き不透明で難しい局面も続いています。しかし、そんな時代だからこそ、人間への信頼と温かさを土台に据えて、力を蓄え、人のことを「いたわり」「思いやれる」「優しい」人になり、ほんの少しだけ、周りの人を自分の光で照らし、周りの人を輝かせることで、自分もまた少しだけ輝くことができる。そんな些細な営みを通して、自分の身近な家族はもちろん、あなたの周りにいる全ての人々が幸せだと思える社会を創ってほしいと願っています。

皆さんは、どんな人生でも歩くことができます。未来のすべての答えは自分自身の中にあります。もし人生に二つの道があって、どちらに進もうか迷ったら、苦勞が多いほうを選べばまず間違いない。安易に手に入る幸せより、たどり着く幸せにこそ大きな喜びがあるのです。頭を高く上げ、力強く、一生懸命、自分の人生を歩いてください。そして、苦しい時ほど思い出して欲しい、どんなに不器用に生きようとも、本当の強さは優しさの中にある。皆さんが、この世に命を授かったのは、幸せになるためだということ。



平成30年度、本校教育活動へのご理解、ご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。